

第5回映画上映会：「南極物語」

および 第34回弘明寺サロン 開催記

日 時：2015年2月15日（日）14：00～16：30

場 所：第3講義室（映画上映会）、学生・同窓会室（弘明寺サロン）

参加者：映画上映会 22名

弘明寺サロン 18名

2月15日（日）に第5回映画上映会を開催し、「南極物語」を上映しました。映画終了後は学生・同窓会室に場所を移し、弘明寺サロンとしてお菓子をいただきながら歓談しました。様々な話に花が咲きました。

「南極物語」上映前に、映画研究同好会の寺村紀美夫により南極観測についての概要説明がありました。

日本の南極観測は1956年に始まり、今年で第56次になるそうです。現在は日本の南極基地は昭和基地も含めて4か所となり、南極観測船も、初代・宗谷、2代・ふじ、3代・しらせに続き、現在は4代目になる2代目しらせが活躍しています。南極観測の項目は多岐にわたり、オーロラの観測、宇宙線の観測、気候の観測などがなされています。南極大陸は厚い氷（氷床）に覆われていますが、その氷床をボーリングして採取されたアイス・コアは、中に閉じ込められている過去の大気を分析することによって地球の過去を知ることができる貴重な試料です。日本の南極観測隊は、地下約3000mのアイス・コア採取に成功し、その最深部の年代は約70万年以上前と言われているそうです。

「南極物語」は1983年に公開された映画で、実話に基づいています。

1956年に南極に赴いた南極地域観測隊第1次越冬隊の1年以上にわたる南極生活は、初めてのことばかりで苦勞の連続でした。その上、1958年には第2次越冬隊と交代する予定でしたが、悪天候のために交代要員なしに昭和基地を引き上げざるを得なくなってしまうそうです。犬ぞり用として南極に連れて行った15頭の樺太犬を連れて帰ることもできませんでした。

その1年後に第3次越冬隊が南極に到達し、無人の昭和基地に降り立ち、生きていた兄弟犬のタロとジロに奇跡の再会を果たします。「タロとジロは生きていた」との話は当時大きなニュースになりましたので、覚えていらっしゃる方も多いのではと思います。15匹の樺太犬を悪天候のために結果として置き去りにせざるを得なかった時の苦悩や、その後の苦しみも映画を見てよくわかりました。映画の最後で第1次越冬隊で犬係だった二人の隊員がタロ・ジロと再開する場面は、ストーリーが分かっているだけでもドキドキしながら見ました。二人の隊員を演じた故・高倉健さんと渡瀬恒彦さんも魅力的で、故・夏目雅子さんの凜とした美しさも久し振りに見ることができました。

南極に関しては、弘明寺サロンでは過去2回、話をして頂いています。

★第12回弘明寺サロン 2012年9月19日

片岡久雄氏 「第1・2次南極観測隊の輸送業務に従事して」

★第23回弘明寺サロン 2013年11月20日

藤田緑氏 「予想を超えた南極クルーズ」

放送大学神奈川同窓会ホームページ「波濤ネット」にそれぞれの開催記がありますので、そちらもどうぞご覧ください。

次回の映画上映会は、8月に「サウンド・オブ・ミュージック」を上映します。

次回弘明寺サロンは、3月18日（水）に「ストック社会における望ましい住宅像」というテーマで浅井公子さんに話をして頂きます。

どちらも事前予約なしで参加できますので、どうぞお気軽にお出かけください。

（記録；安達）

ご参考情報

以下のホームページに南極観測の情報がありますのでご覧ください。

- ①国立極地研究所HP <http://www.nipr.ac.jp/jare/>
- ②観測隊情報HP http://www.jare.org/JARE_news.html
- ③南極越冬隊の奇跡HP http://www5a.biglobe.ne.jp/~t-senoo/Ningen/nankyoku/sub_nankyoku.html
- ④気象庁/南極観測についてHP <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kansoku/>